



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

2013年 アジア・太平洋YMCA同盟 常務委員会、チェンジ・エージェンツ研修報告

Julia Mun Pan



アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)の年次常務委員会が3月6日～8日、香港にて開催されました。アジア・太平洋地域の22の国・地域のYMCAより、最前線で活躍するリーダーたち110人が集いました。モンゴルからは、CYA(Christian Young Association)の3人の代表者が出席しました。CYAはモンゴルにおけるYMCAの再興に取り組んでいます。

常務委員会に先立ち3月4日には、地球市民育成に関する諮問会議が行われ、5日には、オーストラリアYMCA同盟総主事のRon Mell氏による組織運営(ガバナンス)に関する研修が行われました。

常務委員会後、3月8日～10日には、ウーカイシャ・ユースビレッジにて、チェンジ・エージェンツ(注:各国YMCAのユース代表、今後のYMCAや世界の担い手)対象のユース・エンパワーメント・トレーニングが行われました。世界YMCA同盟のRomulo Dantas氏がアジア・太平洋地域のチェンジ・エージェンツのためのワークショップを行い、世界YMCA同盟のチェンジ・エージェンツに対するアジェンダや、世界YMCA同盟が進めるチェンジ・モデル(Space, Transformation, Impact)について紹介しました。研修では、地球市民、リソース・モビリゼーション(財政的・人的資源の活用)、グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(環境や現地の人々の生活に配慮した観光業)についても触れられました。

アジア・太平洋地域からは28人のチェンジ・エージェンツたちが参加しました。

全体を通して、この1週間、多くの学びを得ることができました。会議に参加くださったすべてのYMCAに感謝いたします。また、会場ご提供くださった香港中華YMCAおよび、香港YMCAに感謝申し上げます。

* 議事に関する詳細は、2～3ページの「総主事デスクより」をご一読ください。

日本からは、岡戸良子氏(横浜YMCA、日本YMCA同盟常議員)、黒澤伸一郎氏(横浜YMCA、日本YMCA同盟常議員・評議員)、廣瀬頼子氏(神戸YMCA、日本YMCA同盟国際協力委員)、島田茂(日本YMCA同盟総主事)が出席しました。

フランスコ新ローマ教皇へのご挨拶

アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平

この場をお借りして、先日新たにローマ・カトリック教会の教皇に就任された教皇フランシスコにAPAYよりご挨拶申し上げます。

新ローマ教皇に、YMCA、とりわけアルゼンチンYMCAと密接な関係をお持ちのアルゼンチン大司教区のJorge M. Bergoglio 枢機卿が選出されたことは、YMCAにとって特別な意味を持ちます。人間味あふれる教皇は、他の宗派や宗教を信仰する人々との関係構築を目指し、たゆみなくエキュメニカルな努力をされてきたことでよく知られています。エキュメニカルな団体であるYMCAに対する証として、プエノスアイレスでYMCAのリーダーたちと懇談をしたことがあります。最近では世界YMCA同盟のJohan Vilhelm Eltvik 総主事、ヨーロッパYMCA同盟のJuan Simoes 総主事、そして当時世界YMCA同盟総主事であったBart Shaha氏などが招かれました。アルゼンチンYMCAは、新教皇のご協力やご支

援によって祝福され、今日私たちもアルゼンチンYMCAとともに喜びを分かちあっています。

私たちは、教皇フランシスコの聖なるご奉仕のもとに、教会がさらに人々のニーズに応え、環境の保護に責任を持ち、他の宗教を信仰する人々との協力関係を築き、世界に平和と調和をもたらすことを期待しています。

総主事デスクより・・・

アジア・太平洋YMCA同盟常務委員会報告

アジア・太平洋YMCA同盟総主事
山田公平

定例のアジア太平洋YMCA同盟常務委員会が3月5～8日に行われました。今年は、例年以上の参加で、21か国から110名を超える人たちが集まり、その中には新しいYMCAとなるモンゴルからも3名の参加者がいました。各国YMCAの代表だけでなく、各地域のYMCAからも参加者が多く、APAYへの関心が高いことに感謝です。



全体的に感じたことは、全体の雰囲気の和やかさです。それぞれのYMCAは、全く違う状況で違った問題を抱えながらも、YMCAとしての絆を強く感じることができました。初めて参加した人たちも多分そんな和やかな雰囲気を感じたのではないのでしょうか。YMCA運動の一部としてみんなが一つにつながっているという気持ちがそういう雰囲気を生み出しているのではないかと思います。

今回は2015年に開催されるAPAY総会（General Assembly）の主催国を決めました。候補として名乗り挙げた国は、スリランカと韓国でした。ちょうど6年まえに同じ顔ぶれが第17回APAY総会（2007年開催）の候補地として名乗りをあげました。そのとき、韓国とスリランカが誘致合戦を予定していましたが、津波から回復しつつあるスリランカに韓国側が辞退し、開催地を譲ったことがありました。スリランカのラクシャン総主事は、そのときのことを思い出し、今回は韓国側に主催国を譲りました。結果、韓国の大田（デジョン）

での開催が決まりましたが、これもまた、アジアのYMCAとしてあたたかい配慮をそれぞれがもたらしている場面でした。第19回APAY総会は、2015年9月に大田（デジョン）で開催されます。

今回特にうれしかったことは、モンゴルの参加でした。モンゴルにあるChristian Youth Associationという青少年団体から、Javkhlantugs Ganbaatar（ジョブカ）理事長、Purev-Erdene Enkhtur（プレブ）理事、そしてユースのEnkhtuya Purevdorj（トーヤ）事務局長が、参加しました。APAYでは彼らがYMCAとして活動することを歓迎し、全員一致で、新しいYMCAとして世界同盟に推薦することが決定されました。

以下に今回の常務委員会で決議されたことを簡単に紹介します。

ミッション委員会

1. オルタナティブ・ツーリズム（新しい観光プログラム開発）を2013-2015にどう進めるかを検討
2. ソーシャル・エコノミー グローバル・エコノミーによる弊害について考え、YMCAとしてすべきことを研究すること
3. 地球市民育成（Global Citizenship）推進のための計画（2013～2015）を策定

定款、会則検討委員会

1. 現行制度では、理事全員が総会時に交代することになっており、理事の任期を変え、一部が残れるような制度に変更すべきかどうかを検討中。2014年3月までに検討し、協議することになった。
2. APAYガバナンスのあり方についての条文を会則の付則としてつけることになった。

ジェンダー委員会

1. すべての国・地域のYMCA同盟にジェンダー委員会を設置されることを要請する。
2. APAYが出したジェンダーに関する方針の案を確認し、またジェンダーに関する調査に応じる。
3. 6月3～10日にバンコクで行われるジェンダー・アドバン

ス・トレーニング、2014年1月に日本で行われるジェンダー・トレーナーコースに参加者を送り出すよう要請。

ユース委員会

1. ユース・カンファレンスはインドで8月23～28日に開催。
2. 2014以降に開催されるユースプログラムの開催地を選ぶシステムの明確化が必要。
3. ユース・エンパワーメントに関する調査に協力を要請。

ゴールデン アニバーサリー トラストファンド

ゴールデン アニバーサリー トラストファンド (Golden Anniversary Trust Fund Committee) による今年の支援は、災害対策に関するワークショップ (2014年7月)、ソーシャル・エコノミー・ワークショップ (2014年6月)、ユース・エンパワーメントに関するプログラム (2013年) への、総額 34,500 USD に決定した。

財務委員会

1. 今後の APAY の活動をさらに進めるため、可能な限り負担金の増額を要請する。
2. APAY では、オーストラリアと協力し、インターネットショッピング (E Store) の可能性を検討中。YMCAグッズなどを購入したり、YMCAで作られた製品のフェア・トレードを検討する。そのためのタスクチームを組織する。

ワイズとの関係を検討

今回の常務委員会でもう一つ特別な関心は、ワイズとの協力関係について考えさせられたこと。これまでも毎年、香港のワイズが主催で朝食会を開催していましたが、今年はその朝食会に 35 人が参加しました。中心は久しぶりにあうワイズの人たちとの交流ですが、今年はまだワイズのない地域のYMCAが多く参加して、ワイズというYMCAのパートナーの働きに関心を寄せてきたことに注目。来年は、正式に時間をとり、YMCAとワイズメンズクラブとの関係をどう積極的かつ意図的に作り上げていくかを一緒に考えたいと思います。日本からわざわざこの会のために来てくださった岡野次期アジア地区会長に感謝。

最後に、今回特別に参加していただいた世界YMCA同盟ユース担当の Romulo Dantas さん、リソースモービリティのコンサルタント Ron Coulombe さん、そしてアメリカYMCA国際担当の Boon Chin Tan さんに感謝します。

インターンシップの後は？

2012～2013 APAY インターン Julia Mun Pan



興味のあることや楽しいことに取り組んでいる時は特に、時間が経つのがとても速いものです。ユース・インターンとしての APAY での学びの時は、終わりを迎えました。これが私のYMCAでの献身的な働き の終わりでしょうか？ いいえ、むしろ始まりなのです。自分自身、APAYでの働きや学びを通して、エンパワーされ、さらに自身をつけることができました。この場所がYMCAにおける、私の新たな刺激の源 (inspiration) であり献身 (dedication) の始まりなのです。YMCAが私の考え方を変わってくれました。以前は、私のためにYMCAは何をしてくれるのか、YMCAは私の生活をよりよいものにしてくれるのかと考えていました。しかし、1年間のインターンシップを終え、私がYMCAのために何ができるか、そして地域や人々の生活のために私がどのような変革を起こせるか、という考え方に変わりました。

私に、2012年～2013年のAPAYユース・インターンという機会を与えてくださった、すべてのAPAYスタッフ、役員の皆様に厚くお礼申し上げます。また、APAYが私の1年間の香港での滞在先、渡航費、交通や食費等を提供できるよう、「ユース・フェロー (Fellow For Youth)」にご寄付をくださった皆様にも、お礼を申し上げます。私のような東南アジアの開発途上国のユースにとっては、特に貴重な機会です。今後は、出身地のミャンマー・ミッチーナのYMCAでスタッフとして働き続けます。

お別れのご挨拶

Liem Hwee Ming

私は 1995 年から数回香港を訪れてきました。香港を訪れるたび毎回、新たな見識を与えられました。APAY での最後の仕事の中でも、新たな経験をしました。その経験から、以下のような考察を得ています。



- ・私たちはときどき「よくない」と見なされている人の内面にもよい教えを見出すことがあること。
 - ・よいことの中にも悪いことが存在し、悪いことの中にもよいことが存在すること。
 - ・この世界には単純な答えなどないこと。私たちが何かを知っていると感じたとき、実際に私たちは何も知らないこと。世界は私たちが理解できる限界を超えていること。
- 結論としては、私たちは私たちが望むように答えを探し出すことができなかつたのです。私たちはただ(白と黒、善と悪、幸福と不幸などという)逆境の間を仲良く生きていくしかないのです。この世界について、答えなどないのです。絶対的なバランスもありません。

APAYでは、今日のマス・ツーリズム(大衆的観光)に対抗するオルタナティブ・ツーリズムを開発するため、グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(GATN)に携わりました。マス・ツーリズムが利益ではなく、さらなる害をもたらすとき、GATN プログラムは地域の人々の生存をかけた観光業を目指す絶え間ない苦闘となります。このように、このオルタナティブ・ツーリズムのプログラムでは、私たちは各地のYMCAや各地域における持続可能性を確立し、現在のツーリズムを、破壊的な方法から気遣いをもった方法へと道を正そうとしてきました。今日や未来の世界をよりよくするための画期的な観光業となることを願って。

APAY とともに働く機会を与えてくださり、また、この世界について、特に世界に対するYMCAの見方やそのYMCAの見方を越えた働きについて、よりよく理解する機会を与えてくださった、すべてのYMCAとAPAYに感謝申し上げます。また、優しいお気遣いのご支援をありがとうございました。

GATN が、APAY と各YMCAとの関係を強化できますよう、お祈りいたします。皆様に感謝申し上げます。

宗教間対話フォーラム(ICF)人権ワークショップ 宗教対立のある都市で開催

Bruce van Voorhis



←2月にインドネシア・ソロで開催されたICF人権ワークショップにて。どのようにクリスチャニティーが人権に根ざしているのか、Paulus Hartono 牧師が参加者に説明している様子。

2月17日～23日、インドネシア・中部ジャワ州ソロにて、ICF主催の人権ワークショップが行われました。カンボジアとスリランカからの平和学校(School of Peace: SOP)修了生が、ソロやその近郊からの5人の参加者に加わりました。今回は、平和学校修了生たちを、各地の人権に関するリソース・パーソンへと育成するためにICFが行っているワークショップの第2回でした。第1回のワークショップは、昨年9月にインドネシア・ジャカルタで行われました。

現地コーディネーターPaulus Hartono 牧師は、ソロは人権ワークショップを行うのにとってもよい場所であるといえます。ソロではクリスチャン・コミュニティに対するムスリム過激派による暴力が長く続いていたからです。Hartono 牧師とPesantren (pesantren。訳注:寄宿制イスラム学校)の指導者Imam Nafi 師は、10年以上にわたり、ソロの各宗教コミュニティ間の関係構築や暴力反対運動を続けてきました。2人は、2011年7月にバングラデシュ・ダッカで開催されたAPAY・ICF共催のミニ平和学校に参加しました。

ジャカルタで行われた第1回ワークショップの主な強調点は、世界人権宣言や他の国連の条約・規約等に反映されているような、法的な側面から見た人権の議論でした。このような強調点は今回のソロでのワークショップにも引き継がれており、参加者は女子差別撤廃条約や子どもの権利条約についても検討しました。ワークショップの1コマでは、参加者が自身で選択した特定の聞き手に対して、女子差別撤廃条約に関するプレゼンテーションをすることになりました。

それだけでなく、今回のソロでのワークショップでは、人権他の側面、特に道徳観や宗教に基づく人権についても紹介されました。カンボジア出身の平和学校修了生は仏教に関連した人権の教えについて話し、Paulus 牧師、スリランカ出身の平和学校修了生および ICF スタッフの Bruce Van Voorhis の3人はキリスト教からの人権の視点について紹介しました。また Imam Nafi 師は、今回参加がかなわなかったインドネシア・アチェ出身の平和学校修了生が準備したパワーポイント・プレゼンテーションを用い、イスラム教の人権の教えについて話をしました。

正確に文書を著す方法について学んだ後、ワークショップ参加者はその学んだ方法を用いながら、それぞれの国における特定の人権問題や人権に関する事件に基づく緊急アピールを作成し、実践練習しました。

プログラムのフィールドトリップでは、Imam Nafi 師の働いているプサントレンや、ソロの女性たちがドメスティック・バイオレンスや人身売買について話し合うコミュニティー、平和を願い植樹を行った仏教寺院を訪ねました。また、すべての人々の人権を尊重するため、この複雑な社会で起きる出来事をレポートしようとしているソロの主要紙“Solo Pos”のジャーナリストたちと懇談を行いました。



APAY の新ユース開発担当スタッフ紹介

ユース開発担当のスタッフとして、Roger Anton Predeep Peiris 氏が新たに APAY の仲間に加わります。1997 年～1999 年にコロombo YMCA でプログラム・アシスタントを務め、2000 年から 13 年間ニゴンボ YMCA の総主事として奉仕されてきました。



Roger 氏はスリランカのオープン大学で社会学を学びました。1998 年には YMCA 主事対象の基礎研修を受け、2008 年には APAY の第 26 回アドバンス・スタディーズ・プログラムを修了しました。また、2002 年にメキシコで開催された世界 YMCA 大会には、ユースとして参加しています。

また、妻 Laxhika Mareen Seuwandhi さんとの間に娘の Reshma Anne Saheli さんがいます。Roger 氏は 2013 年 4 月から APAY に赴任します。

発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org